

2019年度 研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2019年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2019年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式Bに記述のうえ提出してください。

国際言語文化研究所(以下、言文研)は、研究所重点プログラム、研究所独自の萌芽的研究助成プログラムや、研究所企画講演会・シンポジウムに若手研究者を巻き込みながら通年で遂行し、研究成果は学術論文・書籍や研究所紀要として発信してきた。

研究所紀要に関しては、例年通り2019年度も「言語文化研究」を4号刊行した。内容は、「ハワイ日本人移民150周年から考える」「現代イタリアの知の拡散と集積(その式)」等シンポジウム・講演会特集に加えて、「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」「西欧の伝統に対するアフリカン・ディアスポラ文学の交渉と実践」等の特集もあり、更に研究所重点プログラムや萌芽研究の成果報告および多くの個別投稿論文も含まれ、非常に多岐に渡る言文研の研究課題を網羅する充実したものであった。

毎年10月実施の研究所連続講座では、「食と政治—胃袋から支配する」を2019年度のテーマとして、(1)食と全体主義、(2)食と甘さの世界変容、(3)食と言説、(4)食と支配・抵抗に関する講演会を4週連続で食総合研究センターとの共催で実施し、非常に盛況であった。その成果は2020年度の紀要誌上で発表される。11月には、立命館土曜講座を言文研が担当し、「ことばの科学」をテーマに、日本語や英語を対象とした講座を4回開催し約400名の参加者を得た。

2016年度開始の研究所重点プログラムは5プロジェクトが同時並行で進行しており、4年目を迎えた。「文化の移動と紛争的インターフェース」は構成員数が66人と最も多く、上掲の連続講座や「ジェノサイドと奴隷制」等の講演会を担当し、その成果も23本の論文や20回の研究発表を通して発信した。このプロジェクト内には複数の研究グループが存在し、各グループ内での活発な研究活動がこのような成果に繋がった。「バイリンガル INIRS 言語脳科学プロジェクト」は、園児から成人までの日英バイリンガル被験者から最長10年目の縦断データを収集すると同時に、これまでの研究成果を国内外で書籍として発刊することで、この分野及び社会に還元を図った。「ヴァナキュラー文化の多面的研究」は発足12年目となり、ヴァナキュラー文化の交流と循環を主テーマに据え、2019年度はオーストラリア・アボリジニ系作家とイタリア・フィレンツェ・ルネッサンス研究所員を招聘して講演会を企画した。「ジェンダー研究会」は「性暴力」「クィア理論」「複合差別とアイデンティティ」の3課題に理論的アプローチを試みつつ、縫合点として「性・暴力と対抗フェミニズムの実践」をテーマとした研究活動を進めた。多くの論文執筆・研究発表を行ったが、クィア理論研究分野では2つの映画上映会を通して、日本における男性間の性的関係の社会的位置の変化に関する現場の声を参加者と共有することができた。「風景・空間の記憶、表象、歴史」は研究の発展と国際的な研究交流を目的として、上記「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」国際シンポジウム等を開催した。また、これまでの成果として「風景の人間学—自然と都市、そして記憶の表象」(仲間裕子・竹中悠美編)を三元社から発刊することができた。

このように研究所としての研究遂行とその成果発信および社会貢献は、当初の予定通り2019年度も進めることができた。その中で、本研究所は、若手研究者の育成にも力を入れており、特に研究所重点プログラムでは、共同研究や研究会・シンポジウム開催を通して、(国際的)研究成果発信・マネジメント・研究者ネットワーク構築の面で、経験豊かな研究者がメンターとしての役割を果たすように留意している。また、若手研究者の作成した論文を研究グループ内で査読し、より質の高い論文執筆力の涵養にも努めている。若手研究者による研究会開催(大学院生中心の環太平洋地域のヴァナキュラー文化研究等)や、国際学会での発表(例えば、研究所重点プロジェクト構成員橋本真佐子氏によるライプツィヒ大学での発表)、ジャーナルへの論文掲載や博士号取得という形で、成果は着実に始めている。また、言文研では運営委員だけでなく前年度の萌芽的研究のPJリーダーにも門戸を広げ出版助成を設けている。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	田浦秀幸	言語教育情報研究科	教授
運営委員	有田節子	言語教育情報研究科	教授
	ウェルズ恵子	文学部	教授
	小川真和子	文学部	教授
	河原典史	文学部	教授
	岸 政彦	先端総合学術研究科	教授
	金友子	国際関係学部	准教授
	坂下史子	文学部	教授
	佐藤 渉	法学部	教授
	高橋秀寿	文学部	教授
	滝沢直宏	言語教育情報研究科	教授
	土肥秀行	文学部	教授
	内藤由直	文学部	准教授
	中川成美	文学部	特任教授
	仲間裕子	産業社会学部	特任教授
	中村仁美	文学部	准教授
	西林孝浩	文学部	教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授
	吉田恭子	文学部	教授
	米山 裕	文学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	Lachlan JACKSON	法学部	教授
	加國尚志	文学部	教授
	竹中悠美	先端総合学術研究科	教授
	崎山政毅	文学部	教授
	ポール・デュムシエル	先端総合学術研究科	教授
	南川文里	国際関係学部	教授
	小川さやか	先端総合学術研究科	教授
	細谷 亨	経済学部	准教授
	ドユニ・タヤンディエー	国際関係学部	准教授
	安保寛尚	法学部	准教授
	鳥木圭太	文学部	助教
	三須祐介	文学部	准教授
	平田 裕	言語教育情報研究科	教授
	鶴野祐介	文学部	教授
	岡本広毅	文学部	准教授

		松本克美	法務研究科	教授
		丸山里美	産業社会学部	准教授
		RAJKAI Zsombor Tibor	国際関係学部	教授
		LIONG Mario	国際関係学部	准教授
		鳥山純子	国際関係学部	准教授
		坂本利子	産業社会学部	特任教授
		二宮周平	法学部	特任教授
		飯田未来	政策科学部	准教授
		金成恩	立命館グローバル・イノベーション 研究機構	助教
		住田翔子	産業社会学部	准教授
		加藤政洋	文学部	教授
		中本真生子	国際関係学部	准教授
		ロベルト・テッロースイ	言語教育センター	外国語嘱託講師
		藏藤健雄	法学部	教授
		佐野まさき	文学部	教授
		松田佑治	言語教育センター	外国語嘱託講師
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	櫻井悟史	生存学PD	専門研究員
		佐久間香子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		酒井麻依子	文学部	初任研究員
		松田智裕	文学部	初任研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	荒木健哉	先端総合学術研究科	一貫制博士課程6回生
		柏尾有祐	先端総合学術研究科	一貫制博士課程6回生
		後山剛毅	先端総合学術研究科	一貫制博士課程5回生
		福田浩久	先端総合学術研究科	一貫制博士課程4回生
		栗山雄佑	文学研究科	博士課程後期課程
		八木達祐	先端総合学術研究科	一貫制博士課程5回生
		今里基	先端総合学術研究科	一貫制博士課程4回生
		佐々木亮	先端総合学術研究科	一貫制博士課程5回生
		小田英里	先端総合学術研究科	一貫制博士課程4回生
		中井祐希	文学研究科	博士課程後期課程
		安藤陽平	文学研究科	博士課程後期課程
		金昇淵	文学研究科	博士課程後期課程
		鈴木陽子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程6回生
		青木秀光	先端総合学術研究科	一貫制博士課程7回生
浅山太一		先端総合学術研究科	一貫制博士課程3回生	
権藤千恵		先端総合学術研究科	一貫制博士課程4回生	
平安名萌恵	先端総合学術研究科	一貫制博士課程2回生		
OUYANG Shanshan	先端総合学術研究科	一貫制博士課程2回生		
ユ・セン	言語教育情報研究科	博士課程前期課程		
カク・シュウイ	言語教育情報研究科	博士課程前期課程		

		戸高遥平	言語教育情報研究科	博士課程前期課程
		古谷やす子	文学研究科	博士課程後期課程
		山崎 遼	文学研究科	博士課程後期課程
		猪熊慶祐	文学研究科	博士課程後期課程
		中谷可惟	文学研究科	博士課程後期課程
		三木菜緒美	文学研究科	博士課程後期課程
		サーミ・ジャン・カーリマン	文学研究科	博士課程後期課程
		吉田暁音	文学研究科	博士課程前期課程
		秋吉大輔	文学研究科	博士課程後期課程
		宮田絵里	文学研究科	博士課程後期課程
		岩本知恵	文学研究科	博士課程後期課程
		森祐香里	文学研究科	博士課程後期課程
		WANG, Yan	文学研究科	博士課程後期課程
		張憲	先端総合学術研究科	一貫制博士課程7回生
		橋本真佐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程5回生
		有馬恵子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程1回生
		松本彩見	先端総合学術研究科	一貫制博士課程1回生
		坂本 維	先端総合学術研究科	一貫制博士課程1回生
		④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)	西井麻里奈	衣笠総合研究機構
	その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研 究生、研修生等)	原 佑介	先端総合学術研究科他 国際言語文化研究所	授業担当講師 客員協力研究員
田中壮泰		文学部 国際言語文化研究所	授業担当講師 客員協力研究員	
木下 昭		文学部	非常勤講師	
佐藤 量		文学部	非常勤講師	
池田啓悟		文学部	非常勤講師	
武田悠希		文学部	授業担当講師	
川内有子		文学研究科	研究生	
山本真紗子		文学部	授業担当講師	
川端美季		産業社会学部	授業担当講師	
番匠健一		先端総合学術研究科 同志社大学	授業担当講師 研究員	
フェデリカ・スガルビ		文学部 イタリア文化会館 大阪 国際言語文化研究所	授業担当講師 講師 客員協力研究員	
大村和正		産業社会学部 国際言語文化研究所	非常勤講師 客員協力研究員	
客員協力研究員	大野藍梨	国際言語文化研究所	客員協力研究員	
	島田 龍	人文科学研究所	客員協力研究員	
	宮下和子	鹿屋体育大学 放送大学	名誉教授 非常勤講師	

	西山淳子	和歌山大学	准教授
	海寶康臣	九州歯科大学	講師
	加藤昌弘	名城大学	准教授
	姫岡とし子	東京大学	名誉教授
	仲間 絢	東京藝術大学	学術振興会 特別研究員 PD
	今野裕子	亜細亜大学国際関係学部多文化コ ミュニケーション学科	講師
	山崎 彩	東京大学(他)	非常勤講師
	櫻澤 誠	大阪教育大学教育学部	准教授
	玉野井麻利子	University of California, Los Angeles Department of Anthropology	Professor
	フェデリコ・ファルネ	ボローニャ大学	非常勤講師
その他の学外者	山口真紀	神戸学院大学	講師
	井上 彰	東京大学	准教授
	佐々木ボグナ	京都大学	非常勤講師
	野村真理	金沢大学	名誉教授
	久野量一	東京外国語大学	教授
	大辻 都	京都造形芸術大学	教授
	中村隆之	早稲田大学	准教授
	佐久間寛	東京外国語大学 AA 研	特任研究員
	寺尾智史	宮崎大学	准教授
	大澤真幸	麗澤大学	客員教授
	後藤玲子	一橋大学	教授
	長谷川唯	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	村田裕和	北海道教育大学旭川校	准教授
	泉谷 瞬	大谷大学	講師
	友田義行	信州大学	准教授
	禧美智章	名古屋芸術大学	講師
	飯塚隆藤	愛知大学	准教授
	石田智恵	早稲田大学	常勤講師
	孫 美幸	大阪大学	講師
	阪本佳郎	東京外国語大学大学院総合国際 学研究科	博士課程後期課程
	湊 圭史	松山大学	教授
	スウ・ユウキ	言語教育情報研究科修了生	
那須 葵	京都大学学際融合教育研究推進 センター・グローバル生存学大学 院連携ユニット	事務員	

	梁仁實	岩手大学	准教授
	木村朗子	津田塾大学学芸学部	教授
	池内靖子	立命館大学	名誉教授
	岡野八代	同志社大学グローバル・スタディー ズ研究科	教授
	上野千鶴子	東京大学 認定 NPO 法人ウィメンズアクション ネットワーク(WAN)	名誉教授 理事長
	堀江有里	法政大学大原社会問題研究所	客員研究員
	岩川ありさ	法政大学国際文化学部	専任講師
	黒岩裕市	フェリス女学院大学	非常勤講師
	大谷通高	大学共同利用機関法人 人間文化 研究機構 総合地球環境学研究所	技術補佐員
	庄婕淳	惠州学院(中国)	専任教員
	三木順子	京都工芸繊維大学	准教授
	ジョス・デ・ムル	エラスムス大学	教授
	イアン・ホワイト	エジンバラ大学	名誉教授
	ジョンヒ=リー・カリッシュ	ベルリン自由大学	教授
	ゲイル・レヴィン	ニューヨーク市立大学	教授
	マルコ・ボア	ラフバラー大学	PD プログラム・ディ レクター
	田所辰之助	日本大学	教授
研究所・センター構成員 計 159 名 (うち学内の若手研究者 計 43 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2020年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	原 佑介	『禁じられた郷愁/小林勝 の戦後文学と朝鮮』	単著	2019年3月	新幹社		全401頁
2	大野藍梨	『「抵抗」する女たち/フラ ンス語圏カリブ海文学に おける「シスターフード」』	単著	2019年9月	松籟社		全205頁
3	中村隆之	『野蛮の言説』	単著	2020年2月	春陽社		全352頁
4	石田智恵	『同定の政治、転覆する声 /アルゼンチンの「失踪 者」と日系人』	単著	2020年2月	春風社		全336頁
5	佐藤 量 他2名編	『戦後日本の満洲記憶』	単著	2020年3月	東方書店		全358頁
6	河原典史 監修	『日本伝説資料集 全5 巻』	単著	2019年4月	クレス出版		全2,447頁
7	土肥秀行	『1926年のマリネット ィ 新たな演劇批評とし ての Misurazioni と第一』	共著	2019年	『イタリア語イタリア文 学界におけるスペクタ クル』"El espectáculo en		pp. 122-132

		回南米旅行」〔伊語〕 "Marinetti 1926: le Misurazioni come nuova critica teatrale e il primo viaggio in Sud America"、			la lengua y la literatura italianas"〔西語〕, compilado por Norma Rosario Caballos Aybar, Córdoba, Brujas,		
8	土肥秀行	「石油、ペトロリオ。日 本語訳のための指針」 〔伊語〕"Sekiyu, Petrolio. Criteri per la resa in giapponese"	共著	2020年1月	『“ペトロリオ”出版から 25年』〔伊語〕"Petrolio venticinque anni dopo", a cura di Carla Benedetti, Manuele Gragnolati e Davide Luglio, Macerata,		pp. 237-249.
9	久野量一(翻訳)	『日々の子どもたち』 (原著) エドゥアルド・ガレ アーノ	単著	2019年12月	岩波書店		全290頁
10	TAURA, Hideyuki	Attrition Studies on Japanese Returnees	単著	2019年9月	The Oxford Handbook of Language Attrition (Oxford University Press)	Kopke & Schmid 編	pp. 391-402
11	田浦秀幸	継承語習得と認知能力発 達	単著	2019年8月	バイリンガル・マルチリン ガルの子どもと若者(くろ しお出版)	近藤ブラウン・坂本 光代・西川朋美編	pp. 26-39
12	ウェルズ恵子	ミンストレルショーと音 楽: アメリカ初期資料集 成	単著	2019年12月	ユーリカプレス		全1,730頁
13	湊 圭史	トランスパシフィック・ エコクリティシズムー物 語る海、響き合う言葉	共著	2019年9月	彩流社	伊藤 詔子・一谷 智 子・松永 京子	pp. 227-242
14	松本克美	「尊厳ある社会」に向け た法の貢献ー 社会法とジェンダー法の 協働	共著	2019年10月	旬報社	島田陽一・米津孝 司・菅野淑子 編	pp. 421-450
15	松本克美	法と心理学への招待	共著	2020年1月	有斐閣	サトウタツヤ・若林 宏輔・指宿信・松本 克美・廣井亮一	pp.151-193
16	吉田恭子	精読という迷宮ーアメ リカ文学のメタリーディ ング	共著	2019年9月	松籟社	竹井智子 ほか	pp. 11-30, 165-196
17	LIONG, Mario	Men and Masculinities in Contemporary East Asia	共著	2020年1月	Routledge International Handbook on Masculinity Studies (edited by Lucas Gottzén, Ulf Mellström, and Tamara Shefer). Oxon: Routledge.	CHAN, Lih Shing	Chapter 13
18	KIM Wooja	Hate Speech in Asia and Europe: Beyond Hate and Fear	共著	2020年3月	Routledge	Myungkoo Kang, Marie-Orange Rivé-Lasan, Philippa Hall eds.	編集のみ
19	鳥山純子	「コラム9 エジプトの ウルフィー婚ー個人的経 験から見た信仰心のジレ ンマ」イスラーム・ジェ ンダー・スタディーズ1 結婚と離婚	共著	2019年11月	明石書店	森田豊子・小野仁美 編集	pp. 199-204
20	大谷通高	『ちきゅうけんりレー選 書冊子 ぼくたちを連れ 出す気ままなコンパス』	共著	2020年3月	総合地球環境学研究所	地球研オープンハ ウス「10才の君へ 本から見つける新し い世界(ビブリオバ トル)」企画 冊子編 集委員会 石橋・大 谷・熊澤・真貝 原 口・広報室編	pp. 1-38

21	大谷通高	書籍紹介「人の充実した生き方とは？わたしたちのかに眠る素朴で素敵な感覚『気流の鳴る音』」	単著	2020年3月	総合地球環境学研究所	地球研オープンハウス「10 才の君へ本から見つける新しい世界(ビブリオバトル)」企画 冊子編集委員会 編	pp. 8-9
22	大谷通高	「本を読むことは「とっておきの方法」」	単著	2020年3月	総合地球環境学研究所	地球研オープンハウス「10 才の君へ本から見つける新しい世界(ビブリオバトル)」企画 冊子編集委員会 編	p. 36
23	仲間裕子	芸術愛好家たちの夢—ドイツ近代におけるディレクタントイズム	共著	2019年9月	三元社	佐藤直樹編	pp. 303-336
24	山本真紗子	花街と芸妓・舞妓の世界: 継がれゆく全国各地の芸と美と技	共著	2020年2月	誠文堂新光社	松田有紀子・田中圭子・片山詩音編	pp. 1-271
25	仲間裕子 竹中悠美 高橋秀寿 三木順子 住田翔子 山本真紗子 仲間 絢 フェデリコ・ファルネ マルコ・ボア ジョス・デ・ムル イアン・ホワイト ジョンヒ・リー=カッシュ	風景の人間学—自然と都市、そして記憶の表象	共著	2020年3月	三元社		全 327 頁
26	三木順子	キュラトリアル・ターナーアーティストの変貌、創ることの変容	共著	2020年3月	昭和堂	三木学(共編)	pp. 1-297

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	中川成美	「情動としての『こころ』—文学と身体との結節点」	単著	2019年12月	安倍オースタッド玲子、アラン・タンズマン、キース・ヴィンセント編『漱石の居場所:—日本文学と世界文学の交差』岩波書店		pp. 42-67	無
2	河原典史	「漁業振興をめぐる地域資源の新しい活用—福岡県美浜町の「へしこ」・京都府伊根町の「舟屋」—」	単著	2019年5月	『地域漁業研究』59-1		pp. 20-30	有
3	河原典史	「若狭湾沿岸における海水浴場の展開—交通手段との関係から—」	単著	2019年11月	『運輸と経済』79-11		pp. 27-33	有
4	河原典史	「歴史地理学からみたカナダ日本人移民史研究とその課題—漁業移民から「水産移民」へ—」	単著	2020年3月	『立命館文学』666		pp. 230-244	有
5	河原典史	「[海からの歴史地理]研究の課題」	単著	2019年1月	『歴史地理学』61-1		pp. 1-3	無
6	河原典史	「テニス」	単著	2019年4月	白坂蕃他編『観光の事典』朝倉書店		pp. 313-314	無
7	久野量一	「コンラッドの『ノストロモ』を書き直すこと——フアン・ガブリエル・バスケス『コスタグアナ秘史』」	単著	2019年3月	『コンラッド研究』10号		pp. 1-18	有

8	高橋秀寿	「五〇～七〇年代の西ドイツにおける反ユダヤ主義——その克服？」	単著	2019年3月	『立命館文学』661号		pp. 624-632	有
9	西成彦	「戦後日本でだけが異邦人だったのか？」	単著	2019年7月	『植民地文化研究』18号		pp. 5-13	有
10	佐久間寛	「銚子とカメラ:『大河での闘い』をめぐって」	単著	2019年10月	『ジャン・ルーシュ:映像人類学の越境者』千葉文夫・金子遊編、森話社		pp. 89-111	有
11	後山剛毅	「ヒロシマの原理--1980年以降の原爆表象を中心に」	単著	2019年12月	『立命館大学人文科学研究所紀要』121号		pp. 49-72	有
12	西成彦	「リオ・デ・ジャネイロ1940-42~亡命ポーランド人とシュテファン・ツヴァイク~」	単著	2020年3月	『れいこく』10号、東京大学文学部現代文芸論教室		pp. 460 - 469	有
13	西成彦	「多言語都市・上海を思う(『日録』2018年6月~7月より)」	単著	2020年3月	『立命館言語文化研究』31巻4号		pp. 19-38	有
14	西成彦	「世界文学は何語で書かれるか？」	単著	2020年3月	『越境する歴史学と世界文学』坪井秀人他・編、臨川書店		pp. 121-135	有
15	NAKAMURA, Takayuki	« Modemité noire chez les étudiants et intellectuels à Paris durant l'entre-deux-guerres »	単著	2020年3月	Paris créole : Son histoire, ses écrivains, ses artistes, XIIIe-XXe siècle, sous la direction d'Éric Noël, Presses Universitaires de Nouvelle-Aquitaine,		pp. 97-106	有
16	後山剛毅	「原民喜作品における原爆の記憶--二つの「死」に注目して」	単著	2020年3月	『Core Ethics』16号		pp. 1-11	有
17	内藤由直	「「まこと」と「まことしやかなもの」——中野重治・林房雄の転向と文学——」	単著	2019年12月	『梨の花通信』(68号)		pp. 16-24	無
18	吉田恭子	「橋の上の語り:『ブック・オブ・ソルト』の人物造形と言葉遣い」	単著	2019年10月	『立命館言語文化研究』31(2)		pp. 147-159	有
19	安保寛尚	「エシユからシグニファイイング・モンキーへ: アフリカ、キューバ、アメリカを結ぶ神話とトリックスターをめぐって」	単著	2019年7月	『立命館言語文化研究』31(1)		pp. 141-158	有
20	栗山雄佑	「(ノイズ)混じりの証言を聞き受けること: 崎山多美「月や、あらん」論」	単著	2019年12月	『論究日本文学』(111)		pp. 35-48	有
21	中井祐希	「書き変わる日本と東欧: 横光利一のブダペスト体験」	単著	2019年5月	『日本近代文学』(100)		pp. 31-46	有
22	安藤易平	「安岡章太郎『海辺の光景』論: 信太郎の経験をめぐって」	単著	2019年12月	『論究日本文学』(111)		pp. 49-62	有
23	金昇淵	「The fictional-Reality of actual-Virtuality: Yōko Tawada's Kentōshi (The Emissary)」	単著	2019年12月	『Tawada Yoko: On Writing and Rewriting』Lexington Books		pp. 253-283	有
24	平田裕	日本語超級正規留学生の筆記テスト時と会話時の脳活動の類似性 — fNIRSトレンドグラフでの検証—	単著	2019年11月	Studies in Language Science Working Papers 第9号		pp. 15-28	有
25	ウェルズ恵子	都と異界の狭間、深泥池・市原野・鞍馬・貴船: 矛盾からの再生	単著	2020年2月	立命館大学人文科学研究所紀要(122号)		pp. 243-251	無
26	ウェルズ恵子	〈小特集〉交流と再生の地、京都:よみがえりの都市としての相貌: 巻頭	単著	2020年2月	立命館大学人文科学研究所紀要(122号)		pp. 201-204	無

		言(特集 編著)						
27	佐藤 渉	トニー・バーチの文学	単著	2020年3月	『立命館文学』667号		pp. 129-137	無
28	佐藤 渉	(書評)ヘレン・ガーナー著(加藤めぐみ訳)『グリーンフー — ある殺人事件裁判の物語』	単著	2020年3月	「オーストラリア研究」33号		pp. 70-72	無
29	鶴野祐介	東アジアの「天人女房」説話におけるくあわい>のイメージ —人間界と天上界を繋ぎ、隔てるもの—	単著	2019年5月	うたとかたりの研究会「論叢うたとかたり」創刊号		pp. 2-17	無
30	坂下史子	まちの歴史にリンチを刻む—アメリカにおける人種暴力の記憶化	単著	2019年10月	歴史評論(834号)		pp. 89-98	無
31	岡本広毅	ファンタジーの世界とRPG —新中世主義の観点から	単著	2019年7月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』、31巻1号		pp. 175-187	無
32	OKAMOTO, Hiroki	(書評) Jaclyn Rajsic, Erik Kooper and Dominique Hoche, eds. The Prose Brut and Other Late Medieval Chronicles: Books Have their Histories: Essays in Honour of Lister M. Matheson (Manuscript Culture in the British Isles), York Medieval Press, 2016.	単著	2019年10月	日本中世英語英文学会、Medieval English Language and Literature 34号		pp. 53-58	有
33	海賓康臣	Conjunctions and a Q-implicature: A Study with Reference to <i>soshite</i> in Japanese and Sentence-Initial <i>and</i> in English	単著	2020年3月	立命館大学英米文学会編、『英語文学の諸相 立命館大学英米文学会論集』(金星堂)		pp. 200-216	有
34	加藤昌弘	「スコットランドらしさ」としての言語的特徴の受容: YouTube 上のお笑い番組「音声認識エレベーター」に対するコメント群の質的調査	単著	2019年10月	『カレドニア』47		pp. 1-17	有
35	湊 圭史	ヒップホップにおけるキャンの文化的読み替え —ミュージカル『ハミルトン』と「#BARS メドレー Vol.2」	単著	2020年2月	松山大学『松山大学論集』第31巻第6号		pp. 91-107	無
36	湊 圭史	ミュージカル『ハミルトン』におけるブロンディの演劇的効果	単著	2020年3月	松山大学『言語文学論集』第39巻第2号		pp. 35-50	無
37	山崎 遼	"Nomadic Storytellers: Scottish Traveller Self-Representation in Stanley Robertson's Exodus to Alford"	単著	2020年1月	国立民族学博物館『国立民族学博物館研究報告』44巻3号		pp. 535-556	有
38	猪熊慶祐	"The African American Female Dancer in Jessie Fauset's There Is Confusion: Challenging the Contradiction in the Entertainment Industry"	単著	2020年3月	黒人研究学会、『黒人研究』89号		pp. 34-46	有
39	猪熊慶祐	(書評)「神本秀爾・岡本圭史編『ラウンドアバウト—フィールドワークという交差点』」	単著	2020年3月	黒人研究学会、『黒人研究』89号		pp. 4-6	有

40	三木菜緒美	Jack B. Yeats のブロードサイド・バラッド・プロジェクト: 'A Broad Sheet' と A Broadside	単著	2020年3月	日本アイランド協会『エール』第39号		pp. 48-69	有
41	Sami Can KAHRIMAN	「原始人」は子どもを語っていたかー 童子神像の起源の再考の試みー	単著	2019年5月	論叢うたとかたり、うたとかたりの研究会、1巻(1号)、		pp. 40-49	無
42	川内有子	1860年代における西洋人の「忠臣蔵」へのまなざし: 開国以前の日本人表象とフォークロア研究の興隆	単著	2020年3月	立命館大学アート・リサーチセンター『アート・リサーチ』20号		pp. 11-20	有
43	川内有子	初の英文京都ガイドブックと京都の国際的観光地化における耳塚	単著	2020年2月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』122号		pp. 295-317	無
44	KIMURA, Saeo	Hiratsuka Raichō: Feminism and Androgynous Sexuality	単著	2019年7月	The Dao Companion to Japanese Buddhist Philosophy		pp. 617-633	無
45	木村朗子	戦後文学の倫理について武田泰淳が示したこと	単著	2019年10月	『思想』2019年11月号		pp. 121-138	無
46	木村朗子	敗戦後の記憶を掘り起こすー未来の「引揚げ文学」としての津島佑子『足舟、飛んだ』	単著	2019年10月	『戦後日本文化再考』三人社		pp. 320-342	無
47	木村朗子	女の戦争とフェミニズムー三枝和子の敗戦三部作を読む	単著	2020年2月	『思想』2020年3月号		pp. 168-183	無
48	泉谷 瞬	物語を均すための方法ー川上弘美『真鶴』の「関係／土地」ー	単著	2020年3月	大谷大学文藝学会、文藝論叢、94号		pp. 81-99	無
49	松本克美	民法724条の「不法行為の時」の解釈基準と「損害の性質」に着目した不法行為類型	単著	2019年12月	立命館大学法学会、立命館法学、385号		pp. 1274-1308	無
50	松本克美	人格的利益侵害の損害賠償請求権の消滅時効ードイツ法・韓国法との比較法的検討を踏まえて	単著	2020年3月	立命館大学法学会、立命館法学、387・388号		pp. 2193-2224	無
51	堀江有里	キリスト教における「家族主義」ーキア神学からの批判的考察	単著	2019年9月	日本宗教学会、宗教研究、395号(93巻・2号)		pp. 163-189	有
52	堀江有里	慣習・慣行としての「家族規範」ーホモフォビアと性差別の基盤をめぐって	単著	2020年3月	世界人権問題研究センター、女性差別撤廃条約総括所見をめぐる総合的研究ー日本の国内実施体制と阻害要因を中心に(研究成果報告書)	吉田容子ほか	pp. 93-102	無
53	栗山雄佑	「誰がために(怒り)を表明するのかー目取真俊『虹の鳥』論	単著	2019年8月	『社会文学』50号		pp. 69-80	有
54	栗山雄佑	「補填された欲望・裂け目からの(叫び)ー又吉栄喜『ギンネム屋敷』論ー	単著	2020年3月	『立命館言語文化研究』第31巻第4号		pp. 3-18	無
55	川端美季	近代日本の「国民性」言説における身体観と道徳観ー国民道徳論と国定修身教科書から	単著、	2019年9月	日本医学哲学・倫理学会、『医学哲学医学倫理』第37号		pp. 53-60	有
56	LIONG, Mario	Men in Upheaval: Integrating Hong Kong Politics and Critical Studies of Men and Masculinities	共著	2019年5月	Gender, Place & Culture: A Journal of Feminist Geography 26(7-9)	Petula Sik-ying HO	pp. 1081-1093	有

57	大谷通高	「男の生き方と生活感覚」	単著	2019年3月	続・コンヴィヴィアルな社会へ	総合地球環境学 研究所 広報室	pp. 74-75	無
58	鳥山純子	書評 クリスチャン・ヨブ ケ著『ベール論争—リベ ラリズムの試練』	単著	2019年6月	イギリス女性史研究会(6巻)		pp. 104-106	無
59	鳥山純子	現代エジプトにおける高 齢者介護—家族のダイ ナミクスに注目して	単著	2020年3月	立教大学ジェンダーフォー ム年報(21号)	鳥山純子	pp. 115-130	無
60	橋本真佐子	公刊『月映』第四輯「死に よけて挙げられる生」の哀 悼をめぐる表現と同人の 絆」	単著	2019年5月	『大正イマジユリ』 大正イマジユリ学会、第14 号		pp. 26-49	有
61	竹中悠美	芸術家の遺産と美術館 の倫理 —信頼が裏切ら れるとき—	共著 (翻訳)	2019年6月	『立命館産業社会論集』第5 巻第1号	ゲイル・レヴィン	pp. 155-170	無
62	Yumi Kim TAKENAKA	The boundary zone between natural phenomena and natural disasters in Japanese popular art: Focusing on ukiyo-e and documentary phonebook	単著	2019年10月	Communication and Dialogue, Association of Eastern Aesthetics		pp. 107-115	無
63	Yuko NAKAMA	Invisible Air: How it is Made Visible in Japanese Art	単著	2020年2月	Art Research, Special Issue vol.1		pp. 53-60	無
64	Yumi Kim TAKENAKA	Realism and Ethnology in Ueda Shōji's Photography: Another Aspect of Ueda-chō	単著	2020年2月	Art Research, Special Issue vol.1		pp. 61-68	無
65	Masako HASHIMOTO	Praying Hands: Poetry and Pictures in Sakutarō Hagiwara's Howling at the Moon	単著	2020年2月	Art Research, Special Issue vol.1		pp. 85-91	無
66	仲間 絢	バンベルク大聖堂聖ゲ オルギウス内陣北壁:花 嫁としてのマリアの戴冠	単著	2020年2月	Aspects of problems in Western art history, vol. 17 東京藝術大学大学院、美術研 究科、西洋美術史研究室 紀 要		pp. 31-42	有
67	仲間裕子	フーゴ・フォン・チューデ イのモダニズムと日本	単著	2020年3月	『立命館言語文化研究』31巻 4号		pp. 107-118	無
68	高橋秀寿	皇帝のいる風景—世紀 転換期の帝都ベルリンと 国民表象	単著	2020年3月	『立命館言語文化研究』31巻 4号		pp. 171-176	無
69	三木順子	一般的(allgemein)なる ものの位相	単著	2020年3月	『立命館言語文化研究』31巻 4号		pp. 177-184	無
70	Yuko NAKAMA	Nature and humans: Physical reality in Japanese aesthetics of Hokusai and teamLab	単著	2020年3月	Poland Japan Contemporary Art and Artistic Relations		pp. 29-34	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	中川成美	「贖罪は死者への悼みか— いとうせいこう『想像ラジオ』 を起点に」	2019年12月2日	コンファレンス Lire la Litterature japonaise a la lumiere de l'apres 11 mars、パリ・フランス国立東洋言 語文化学院	
2	土肥秀行	「マルコのほてしない旅—イ タリアにおける『クオーレ』と マルコの物語評」	2020年1月25日	シンポジウム「アニメーションの東西 交流—ハイジとマルコの物語」比較文 学会関西支部 2019年度1月例会、 於・国際日本文化研究センター	
3	土肥秀行	「1920年代のマリネットに おける規範回帰」[伊語] (II)	2019年6月23日	一次資料を使ったイタリア文学研究 日伊合同シンポジウム 第2弾	

		ritorno all'ordine nel Marinetti degli anni Venti)		Seconda giornata di studio e confronto tra Italia e Giappone: ricerche negli archivi letterari italiani 於立命館大学衣笠キャンパス RY206	
4	土肥秀行	「第一次大戦期の日本におけるイタリア人捕虜」	2019年4月20日	イタリア近現代史研究会第337回例会 於工学院大学新宿校舎	
5	NAKAMURA, Takayuki	"La traduction d'Édouard Glissant en japonais et la réception du Discours antillais au Japon"	2019年4月26日	国際シンポジウム"ÉDOUARD GLISSANT et Le Discours antillais : la source et le delta"人間科学館(6F)	
6	野村真理	「シヨアーからナクバへ」(招待講演)	2019年6月16日	歴史家協会大会、同志社大学	
7	佐久間寛	『「テントを切り裂けばバターがある。放っておく?」: 現代ニジェールにおける恋愛、移動、自由』	2019年7月13日	国立民族学博物館研究プロジェクト「ネオリベラリズムのモラルティ」、国立民族学博物館	
8	原 佑介	「帝国のはざま、植民地の「密室」で出会う——中西伊之助が描いた三・一独立運動を手がかりに」	2019年7月13日	国際日本文化研究センター共同研究「帝国のはざまを生きる—帝国日本と東アジアにおける移民・旅行と文化表象」第2回研究会、国際日本文化研究センター	
9	中村隆之	「エドゥアール・グリッサンの小説世界における動物:『痕跡』読解」	2019年8月31日	シンポジウム「カリブ海地域の文学と動物、環境、自然」文学・環境学会第25回全国大会、大東文化会館	
10	田中壮泰	「ボグロムとイディッシュ文学——アッシュ、ミジエリツキ、ベルゲルソン」	2019年9月19日	世界文学・語圏横断ネットワーク第11回研究会企画「トラウマと文学」、同志社大学	
11	SAKUMA, Yutaka	"Le Socrates noir parle ...: Alioune Diop et l'organisation des étudiants noirs", Présence Africaine : Espaces, langues, cultures, politiques et sociétés dans l'espace francophone (Afrique, Amériques, Asie, Europe)	2019年10月6日	du colonial au post-colonial, Université de Strasbourg	
12	하라 유스케	「 일본인 작가가 쓴 3.1 운동 : 나카니시 이노스케 「불령선인」을 중심으로 」	2019年10月25日	2019년도 통일인문학 세계포럼 학문후속세대 학술대회, 중국해양대학	
13	西 成彦	「海の文学〜「うみゆかば」から「大海に生きる夢」まで」(招待講演)	2019年10月26日	東アジアと同時代日本語文学フォーラム第7回シンポジウム《海から見る東アジアの文学と文化》、台湾・東呉大学	
14	ATOYAMA, Goki	"Tamiki Hara in Works by Yoko Ota"	2019年10月18日	6th International Workshop "Japan's Videogames and Digital Cultures Between the Local and the Global"	
15	原 佑介	「日本人作家が描いた三・一独立運動——中西伊之助「不逞鮮人」を中心に」	2019年12月7日	日本比較文学学会第55回関西大会(中部・関西支部合同大会)、愛知淑徳大学	
16	後山剛毅	「原民喜の「人間論」	2019年12月21日	第60回原爆文学研究会、九州大学	
17	原 佑介	「歴史のなかに消えた故郷——朝鮮植民者二世作家小林勝の心情と論理」	2020年2月2日	連続シンポジウム「引揚げを語る、引揚げを考える」第2回、琉球大学	
18	SAKUMA, Yutaka	"Dette et société au Niger"	2020年3月6日	Séminaire de UMR (7367) , Dynamiques Européennes "Mondialisation et mutations sociales en Afrique", Université de Strasbourg	
19	TAURA, Hideyuki	Does an experienced Japanese-English interpreter suffer from skill deterioration after one year's break from the job? – A neuro-linguistic case study	2019年6月	EATS3 (The 3 rd East Asian Translation Studies Conference), Ca' Foscari University, Italy	TAURA, Amanda

20	TAURA, Hideyuki	Professional interpreting and brain re-structuring: A neuro-linguistic enquiry	2019年6月	Critical Link International 9, International University of Health and Welfare, Tokyo	
21	ウェルズ恵子	「説経節」の伝統と変容	2019年5月	プリシュティナ・アルバニア学研究所講演会	
22	ウェルズ恵子	ハワイとサンフランシスコで出会った念仏者の歌と感動	2019年10月	鹿児島教区仏教婦人会連盟第二回実践運動研修会	
23	ウェルズ恵子	ハワイ島コナに念仏者の声を聞く ---移民・開拓・戦争と女性の信仰---	2020年2月	豊耳会仏教講座	
24	鶴野祐介	東アジアの天人女房譚におけるくあわい>のイメージ	2019年11月	アジア民間説話学会第16回国際学術大会、アジア民間説話学会、立命館大学大阪いばらきキャンパス	
25	Yusuke UNO	A Comparative Study of Image of 'Awai [Liminality]' in an East Asian Folktale, "Ten-nin Nyobo [A Heavenly Wife]": Space, Time, and Beings bridging or separating heaven and the human world	2019年7月	The XXII Congress of the International Comparative Literature Association, International Comparative Literature Association, University of Macau, Macau SAR, China	
26	鶴野祐介	ろう学校における手話を用いた民話絵本の読み語り活動 —説話伝承とダイバーシティ—	2019年6月	第43回日本口承文芸学会 沖縄大会、日本口承文芸学会、沖縄国際大学	
27	安保寛尚	砂糖の秩序、タバコのカオス	2019年10月	立命館大学国際言語文化研究所 連続講座「食と甘さの世界変容」、立命館大学	南直人・橋本周子
28	岡本広毅	「Kazuo Ishiguro, The Buried Giant と中世ブリテンの記憶を語る 中世英文学の系譜を21世紀に「受容する」とはどのようなことか？」	2019年5月	カズオ・イシグロと中世アーサー王ロマンス、日本英文学会第91回全国大会シンポジウム、安田女子大学	
29	西山淳子	フレームシフトと漫才における笑い	2019年8月	日本認知言語学会 第20回全国大会、関西学院大学	西岡悠
30	海賓康臣	日本語における副詞節の後置をめぐって	2019年11月	日本語用論学会第22回大会、京都外国語大学	
31	湊圭史	オーストラリア産ミュージカルとグローバリゼーション	2019年6月	オーストラリア学会30周年記念国際大会、青山学院大学青山キャンパス	
32	湊圭史	ミュージカルと米・豪におけるメリトクラシー— Keating! The Musical と Hamilton: An American Musical を比較して	2019年6月	オーストラリア・ニュージーランド文学学会研究大会、日本女子大学目白キャンパス	
33	MINATO, Keiji	"Marginal Yet National?: Whales and Whaling in Japanese Literature"	2019年6月	2019 ASLE Conference: Paradise on Fire, The University of California, Davis.	
34	湊圭史	クジラを巡るSF的想像力のゆくえ—20世紀後半以降の日米小説から	2019年8月	第32回エコクリティシズム研究学会大会、サテライトキャンパスひろしま	
35	湊圭史	「世界の王」とは誰か？—Songs for a New World における「アメリカの夢」再読	2019年10月	日本アメリカ文学会第58回全国大会、東北学院大学土樋キャンパス	
36	古谷やす子	Jonah's Gourd Vine: John の自己喪失	2019年4月	黒人研究学会、龍谷大学深草キャンパス和顔感 B110 教室	
37	山崎 遼	スコットランドの民俗学: その歴史と現在	2019年4月	京都民俗学会4月談話会、京都市男女共同参画センターウィングス京都	
38	山崎 遼	欧米現代民俗学の一例: スコットランドの少数民族トラベラーの研究	2019年9月	関西学院大学世界民俗学研究センター2019 民俗学サマー・セミナー、関西学院大学	三隅貴史、孫嘉寧、宮澤早紀、倉田健太、雷婷、李軒羽、坂元美咲、市東真一、渡勇輝

39	三木菜緒美	Jack B. Yeats のブロード サイト出版とイエイツ家	2019年11月	日本イエイツ協会、愛知学院大学名 城公園キャンパス	
40	Sami Can KAHRIMAN	On the Origins of the Divine Child Figure	2019年7月	ICLA/AICL (International Comparative Literature Association), Macau	
41	Sami Can KAHRIMAN	ブルーメンベルクの神話理 論を手がかりにした童子神 像の起源をめぐる一考察	2020年1月	説話・伝承学会、同志社大学 今出 川キャンパス 良心館3階 303教室	
42	川内有子	Chushingura and the Western Audience in Early Modern Period How the English Translation Influenced on the Theatre Experience of Non- expert Foreign audience?	2019年9月	Iaponica Brunensia 2019、チェコ・ ブルノ大学	
43	川内有子	「忠臣蔵」へ目を向けさせた もの：開国期前後のイギリス における日本人表象との関 連	2019年11月	日本英学史学会全国大会、拓殖大学	
44	川内有子	Kabuki Translated: How the English Translation Influenced on the Theatre Experience of Foreign audience in the Early Modern Japan	2019年12月	Graduate Conference of Japanese Studies、大阪大学	
45	松本克美	日本の性暴力被害と消滅時 効起算点：釧路事件を中心 として	2019年5月	日韓フォーラム・性暴力被害者の損 害賠償請求権と消滅時効、ソウル市、 国会 24 議員会館	キム・ジェヒ、チェ・ソネ、ソ・ジュンヒ他
46	松本克美	人格的利益侵害と民事消滅 時効—修復的正義・司法の 観点から	2019年6月	R3-GIRO「修復的司法観による少子 高齢化社会に寄り添う法・社会シス テムの構築」プロジェクト、第 45 回 修復 的司法セミナー、立命館大学朱雀キ ャンパス	吉田容子、吉川絢子
47	松本克美	韓国調査報告 — 性暴 力・児童期性虐待をめぐ る裁判・法改正動向を中心 に・調査概要	2019年11月	R-GIRO「修復的司法観による少子 高齢化社会に寄り添う法・社会シス テムの構築」プロジェクト、第 49 回修復 的司法セミナー、立命館大学	
48	RAJKAI Zsombor	中西家庭変遷の社会学話 語分析(中国と西洋におけ る家族変動に関する社会学 的言説の分析)	2019年9月	第八届世界中国学论坛、中国上海市	
49	Kyoko YOSHIDA	Writing and Translating in the Age of Post-National Literature	2019年5月	Translation Workshop, ラトガース大学	
50	吉田恭子	2017年ジャイプル文学祭 に参加して	2019年6月	第 1 回現代インド英語文学研究会、 大阪大学中之島センター	
51	Kyoko YOSHIDA	Japanese Literature and Translation after Murakami: A Roundtable Discussion	2019年10月	オックスフォード大学ペンブローク・カ レッジ	Masatsugu Ono, David Karashima, Linda Flores, Jennifer Guest, Laurence Mann
52	Kyoko YOSHIDA	Experimental Re:Retranslation	2019年11月	アメリカ文芸翻訳者協会(ALTA)、ニ ューヨーク州ローチェスター市	
53	Kyoko YOSHIDA	Discussion Group: Kyoko Yoshida discusses the translation and re-translation of Yoshimasu Gozo's Alice Iris Red Horse (New Directions, 2016)	2019年11月	Oxford Comparative Criticism and Translation (OCCT)、セントアン・カレ ッジ	
54	Kyoko YOSHIDA	Creative Writing in the Era of Post-National Literatures	2019年11月	国際シンポジウム「近代文学の終わ り」・東京大学駒場キャンパス	
55	森 祐香里	「肉体文学」再検討に向け て—池田みち子の諸作品 における「肉体」から—	2019年10月	日本近代文学会 2019年度秋季大会 新潟大学	
56	中川成美 安藤陽平 泉谷 瞬	姫野カオルコ「彼女は頭が 悪いから」を読む	2019年7月	「クィア理論と日本文学—クィア・リー ディングの可能性と実践」2019年度 書評会、立命館大学	

	岩本知恵 金昇淵 栗山雄佑 宮田絵里				
57	泉谷 瞬	縮図としての戦争——深緑野分『戦場のコックたち』における「アンバランス」な構成について——	2019年9月	世界文学・語圏横断ネットワーク 第11回研究集会, 同志社大学	
58	王 洋	激動する 1920 年代を生きる中国女性像——芥川龍之介「湖南の扇」論	2019年6月	第 63 回立命館大学日本文学会大会、立命館大学衣笠キャンパス	
59	王 洋	芥川龍之介「奇怪な再会」論——日清戦争・近代化を背景にした(狂女)の生成	2019年7月	第 57 回阪神近代文学会 2019 年度夏季大会、甲南女子大学	
60	王 洋	時代の変わり目を生きる中国女性——芥川龍之介「湖南の扇」論	2019年7月	日本文学協会第三九回研究発表大会、京都女子大学	
61	王 洋	〈北京〉の女性像・女性的北京像における二重性——阿部知二の長編小説『北京』を中心に	2019年12月	阿部知二研究会第 27 回秋季研究大会、姫路文学館	
62	김우자 KIM Wooja	1960 년대의 재일한국인 학생운동과 “조국”의 위치: 당사자 인터뷰를 중심으로	2019年 8月19日	제 14차 코리아학 국제학술토론회	
63	金友子	朴ソウン報告「チョ・ソニ小説『三人の女』に表象された抗日社会主義者女性の叙事」に対するコメント	2019年 10月26日	統一人文学世界フォーラム 2019「3.1 運動 100 周年: 抗日独立運動の国際的性格と意味」	
64	김우자 (金友子)	재일 조선인 여성에 대한 일상적이고 미묘한 차별	2019年 11月29日	연세대학교 국학연구원 비교사회문화연구소 콜로키움 " '디아스포라'의 비대칭성 - 테레사 학경 차의 미학과 재일조선인 여성의 말", Yonsei University, Korea	장한길 (Chicago University)
65	栗山雄佑	『『沖繩と朝鮮のはざまで』(明石書店)への応答と拡張的議論』	2019年9月	ジェノサイドと奴隷制を考える研究会 第 2 回ブレインストーミング 立命館大学衣笠キャンパス	原佑介
66	栗山雄佑	「反響する〈悲鳴〉と記憶——目取真俊『眼の奥の森』論」	2019年10月	東アジアと同時代日本語フォーラム 第7回台北大会 台湾 台湾政治大学	
67	栗山雄佑	「今、沖繩の文学を読むために——ジェンダー／対抗暴力批判の観点から」	2020年1月	日本社会文学会関西ブロック研究例会	
68	武田悠希	「複合的メディアとしての画報誌の行方——押川春浪の雑誌編集の活動から——」	2020年 2月9日	ジャーナリズム研究会第二回研究会、東京大学駒場キャンパス	
69	大谷通高	「シリアスゲームにおける「シリアス」の意味について」	2019年11月	日本シミュレーション&ゲーミング学会、2019年度秋季大会	
70	大谷通高	「シリアスゲームの効果測定についての考察(試論)」	2020年3月	日本デジタルゲーム学会第 10 回年次大会(コロナウイルスにより中止)	
71	鳥山純子	中東における「ろくでなし」ジェンダー学の可能性	2019年9月	国際ジェンダー学会 2019 年年次大会	
72	鳥山純子	フィールドにおける性、このやっかいなる好機	2020年1月	2019 年度第 1 回フィールドサイエンス・コロキウム「フィールドで出会う性、性から出会うフィールド—イスラームとジェンダーの関わりから」	
73	Junko TORIYAMA	Searching for performative analysis of interactions/ social positions in the Middle East: The newest challenge of writing ethnography on the Middle East in Japan	2020年2月	Seminaire Parcours anthropologiques dans le monde arabe (ethnographie, literature, arts, archeologie, orientalisme)	

74	Junko TORIYAMA	Encountering with the Middle East for Japanese ethnographers: A thought around "politeness"	2020年3月	Enquetes ethnographiques au Japon, retours et discussions autour d'experiences recentes	
75	Junko TORIYAMA	The elderly care in contemporary Cairo and its possible effect on the patriarchal family	2020年3月	Seminaire Dynamique du genre en Afrique	
76	宮田絵里	「女という規範をめぐる一高橋たか子「荒野」論」	2019年11月23日	日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際シンポジウム、共立女子大学	
77	宮田絵里	(ディスカッサントとして)「クイアネスとLGBT」	2019年12月7日	日本比較文学会 関西・中部支部合同大会、愛知淑徳大学星が丘キャンパス	司会・パネリスト:岩田和男(愛知学院大学)、パネリスト:梶原克教(愛知県立大学)、パネリスト:三須祐介(立命館大学)
78	中川成美	「贖罪は死者への悼みかーいとうせいこう『想像ラジオ』を起点に」	2019年12月2日	コンファレンス Lire la Litterature japonaise a la lumiere de l'apres 11 mars、パリ・フランス国立東洋言語文化学院	
79	仲間裕子	フーゴ・フォン・チューデーのモダニズムと日本	2019年5月	国際シンポジウム「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」、立命館大学	
80	高橋秀寿	皇帝のいる風景—世紀転換期の帝都ベルリンと国民表象	2019年5月	国際シンポジウム「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」、立命館大学	
81	三木順子	「一般的(allgemein)なるものの位相	2019年5月	国際シンポジウム「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」、立命館大学	
82	Yuko NAKAMA	The aesthetics of landscape in contemporary and traditional vision	2019年6月	Freie Universität Berlin-Kobe University-Ritsumeikan University Joint Workshop on 'Landscape and New Media in Art, Film and Theatre, Art Research Center, Ritsumeikan University	
83	Yumi TAKENAKA	The Beauty and Burden in Japanese snowscapes	2019年6月	Freie Universität Berlin-Kobe University-Ritsumeikan University Joint Workshop on 'Landscape and New Media in Art, Film and Theatre, Art Research Center, Ritsumeikan University	
84	Masako HASHIMOTO	Playing Hands: Poetry and Pictures in Sakutarō Hagiwara's Howling at the Moon	2019年6月	Freie Universität Berlin-Kobe University-Ritsumeikan University Joint Workshop on 'Landscape and New Media in Art, Film and Theatre, Art Research Center, Ritsumeikan University	
85	Zhang Xian	The Cityscape as an Auspicious Image in Suzhou Nianhua	2019年6月	Freie Universität Berlin-Kobe University-Ritsumeikan University Joint Workshop on 'Landscape and New Media in Art, Film and Theatre, Art Research Center, Ritsumeikan University	
86	Yuko NAKAMA	Nature and humans: Physical reality in Japanese aesthetics of Hokusai and teamLab	2019年6月	Jikihitsu The Signature of the Artists, Japanese Tradition in Contemporary Polish Art (the celebration of the centenary of establishing diplomatic relations between Poland and Japan), The Association of Polish Architects, Warsaw	
87	Masako HASHIMOTO	Beyond Character Consumerism: Sakutarō Hagiwara's Howling at the moon and Manga	2019年6月	PaJaKo Workshop, University of Leipzig	
88	Yuko NAKAMA	Japanese aesthetics in the phenomenological view of the fog landscape	2019年7月	The 21st International Congress of Aesthetics 2019, Belgrade	
89	Yumi TAKENAKA	The Family of Man in Japan: A Photographic Exhibition	2019年7月	The 21st International Congress of Aesthetics 2019, Belgrade	

		for World Peace and Atomic Culture in the 1950s			
90	Junko MIKI	Aesthetic Anthropology inside the BAUHAUS	2019年7月	The 21st International Congress of Aesthetics 2019, Belgrade	
91	Aya NAKAMA	Flowers and Femininity of the Bridal Mysticism: Representation of the Bride of the Song of Songs	2019年7月	The 21st International Congress of Aesthetics 2019, Belgrade	
92	Yumi TAKENAKA	“The boundary zone between natural phenomena and natural disasters in Japanese popular art: Focusing on ukiyo-e and documentary phonebooks”	2019年10月	The Ninth International Association of Eastern Aesthetics, at Hubei University, Wuhan	
93	Yuko NAKAMA	The Cultural Comparison of the Landscape Images through the Traveler's View	2019年11月	Hasekura League Symposium: Images, Philosophy, Communication 2019, University of Bologna	
94	Aya NAKAMA	Sandro Botticelli's Primavera and the Bridal Mysticism of the Song of Songs: Floral Symbolism of the Bride and Love's Arrow	2019年11月	Hasekura League Symposium: Images, Philosophy, Communication 2019, University of Bologna	
95	Zhang Xian	从雅到俗—浅谈苏州年画 (From Elegance to Popular Taste)	2019年11月	2019 International Association for Printing Woodblocks(IAPW) Symposium, Ritsumeikan University	
96	仲間裕子	カスパー・ダーヴァイト・フリードリヒのメランコリー—思想・文化的文脈から	2020年1月12日	美学会シンポジウム(美学会)、成城大学	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	「“思い出”の糸をたどって上田敏と北原白秋との出会いによるヴェルレーヌとの巡り合い」	衣笠キャンパス 末川記念会館 第3会議室	2019年 7月8日	50名	
2	「台湾文学講演会「同志文学の歴史と未来——台湾を例として」」	立命館大学平井記念図書館カンファレンスルーム	2019年 10月31日	80名	国際地域研究所中国語圏地域人文学研究会
3	豪作家トニー・バーチ氏 講演と朗読会	衣笠キャンパス	2019年4月	40名	言語教育センター(LEC) Beyond Borders Plaza
4	カルロ・タヴィアーニ氏 講演会	衣笠キャンパス	2019年7月	12名	
5	フォークテイル研究会	衣笠キャンパス	2019年9月	3名	
6	Dr. Rhea L. Comb 氏 公開講演会	衣笠キャンパス	2019年9月	11名	
7	アジア民間説話学会第16回国際学術大会	大阪いばらきキャンパス	2019年11月	40名	アジア民間説話学会
8	Film screening “Boys for Sale” 映画上映会 「売買ボーイズ」	衣笠キャンパス	2019年6月	50名	
9	映画「his」 立命館大学プレミア試写会とトーク	衣笠キャンパス	2019年12月	150名	名古屋テレビ
10	「東アジアにおけるクエアな移動」 立命館大学院生国際会議	朱雀キャンパス	2020年2月	10名	
11	国際シンポジウム「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」	衣笠キャンパス	2019年5月	100名	科学研究費
12	イタリアの風景美	衣笠キャンパス	2019年5月	30名	
13	ベルリンは音楽都市だったか？	衣笠キャンパス	2019年10月	20名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	田浦秀幸	第二言語習得論から見た効果的英語学習法について	BS テレビ東京「日経プラス10」出演	2019年4月29日
2	田浦秀幸	ハローインタビュー:シンガポールでの子育て	シンガポール日本人会誌「南十字星」pp37-39	2019年8月
3	田浦秀幸	帰国後の子ども年齢別ケアの手引き	帰国便利帳(ワイズ・パブリッシング・ジャパン) vol. 28, pp.16-29	2019年9月
4	田浦秀幸	After 16 years in Japan, Sri Lankan woman still classified as an exchange student	The Japan Times (2019.12.4 記事への知見提供)	2019年12月4日
5	田浦秀幸	広がる早期英語留学	NHK テレビおはよう日本への知見提供	2019年12月10日
6	田浦秀幸	英語ができなきゃ始まらない!?	NHK NEWS WEB (2020.1.30)への知見提供	2020年1月30日
7	田浦秀幸	英語学習と認知症対策	立命館大学土曜講座 11月「ことばの科学」第4回, 立命館大学衣笠キャンパス	2019年11月30日
8	ウェルズ恵子	How Does Kosovo Look to a Japanese Woman?	バルカン・インサイト	2019年5月
9	ウェルズ恵子	Here I come! The first trip to Kosovo of a Japanese:Ja ku jam! Mbresa nga udhëtim i parë i një japonezeje në Kosovë	KultPlus	2019年6月
10	ウェルズ恵子	歌詞を研究してきて思うこと	黒人研究学会会報 88号	2019年9月
11	鶴野祐介	パネリストとして「子どもたちの悪態」について話題提供	日本子ども社会学会第26回大会(東京成徳大学)公開シンポジウム「子どもではなく子どもたちについて問い直す」	2019年6月30日
12	鶴野祐介	コーディネーターおよび司会	日本昔話学会2019年度大会(大阪市立大学)シンポジウム「昔話とダイバーシティ(文化的多様性)」	2019年7月7日
13	鶴野祐介	講演「アイスランドの子守唄を育んだものー自然・歴史・風土ー」	日本アイルランド協会「アイスランドの子守唄コンサート」(赤坂 RED THEATER)	2019年10月29日
14	安保寛尚	日本ラテンアメリカ学会第40回定期大会、分科会8(文学)司会	創価大学	2019年6月
15	岡本広毅	「アーサー王物語の変容とその魅力ー騎士ガウェインを中心に」	朝日カルチャーセンター立川教室	2019年11月
16	西山淳子	講演「段落を書く指導」	和歌山県教育委員会 和歌山県自治会館	2020年1月30日
17	加藤昌弘	【講演】「ポピュラーソングから考えるイギリスの地域問題」	『東生涯学習センター 世界の歴史文化講座』(名城大学ナゴヤドーム前キャンパス)	2019年5月23日
18	加藤昌弘	【講演】「ポップカルチャーから読み解く現代社会(全3回)」	『刈谷市・名城大学連携講座』(刈谷市総合文化センター)	2019年11月30日・12月7日・12月14日
19	山崎 遼	Scottish Traveller Writing (修士課程の学生への講義)	Elphinstone Institute, University of Aberdeen	2020年2月19日
20	猪熊慶祐	エッセイ「資料調査報告ーニューヨーク、ボストンを歩いて」	『会報』、黒人研究学会、89号 pp. 5-9	2020年3月
21	吉田暁音	「ラップ・ファンタジーの新たな地平」	『ケンドリック・ラマー 世界が熱狂する、ヒップホップの到達点』(河出書房新社)	2020年3月
22	松本克美	講演「慰安婦」「強制動員」問題を修復的正義から考える	立命館大学土曜講座	2019年10月
23	泉谷 瞬	文学研究とケア理論の交差は「役に立つ」か(書評記事)	図書新聞 3408号、p.7	2019年7月
24	木村朗子	関口涼子・木村朗子対談「震災後文学とジェンダー」	『立命館言語文化研究』31巻2号	2019年10月
25	吉田恭子ほか	現代アメリカ文学ポップコーン大盛り	https://note.mu/kankanbou_e/m/m7a6f213da27	2019年3月~2020年3月
26	Sawako NAKAYASU, Kyoko YOSHIDA	"Girls Inhabit Arch" Translation	pulpmouth, issue 3 https://www.pulpmouth.net/	2020年3月
27	Sawako NAKAYASU, Lynn Xu, and	"Sink or Swim"	Modern Poetry in Translation, No. 1, 2020	2020年3月

	Kyoko YOSHIDA			
28	web 報道	「BL(ボーイズライフ)を優しく受けとめてくれたら…『his』アサダアツシさんと南和行さんを迎えトークセッション開催」	web 報道 「キネ坊主 CineBose」 https://cineboze.com/2019/12/20/his_20191220/	2019年12月20日
29	新聞報道	「多様な性と家族像 討議と映画で探る 20日、立命大で」	京都新聞	2019年7月10日
30	金友子	2019年度立命館大学大学院先端総合学術研究科パートナーシップ委員会企画講演「研究の場におけるマイクロアグレッションを考える」	立命館大学大学院先端総合学術研究科パートナーシップ委員会主催、立命館大学衣笠キャンパス図書館カンファレンスホール	2020年2月21日
31	金友子	『「人権文化の確立」に向けて～外国人差別問題を考える～』	京都府立亀岡高等学校 教職員人権教育研修会(京都府・亀岡市)	2019年11月27日
32	金友子	「マイクロアグレッション——日常に潜む見えない差別・排除」	京都府立朱雀高等学校通信制 人権学習会(京都府・京都市)	2019年11月17日
33	金友子	「マイクロアグレッションとは——日常に潜む見えない差別・排除」	京都府立田辺高等学校、第3回教職員人権教育研修、京都府立田辺高校(京都府京田辺市)	2019年11月6日
34	金友子	在日コリアン女性の生きにくさとマイクロアグレッション	国際人権大学院大学(夜間)の実現をめざす大阪府民会議主催、2019年度プレ講座「社会的マイノリティに向けられるバッシングを考える」第4回、於:大阪市立総合生涯学習センター(大阪市)	2019年10月17日
35	武田悠希	文学講座「江見水蔭の創作活動～読物の見せ方の工夫」	神戸文学館 土曜サロン 文学講座	2019年8月24日
36	大谷通高	地球研オープンハウス「10才の君へ本から見つける新しい世界(ビブリオバトル)」	総合地球環境学研究所	2019年7月
37	鳥山純子	本当はこわい(?)ムスリム女性のスカート論争	ライスボールセミナー	2019年5月
38	鳥山純子	共同研究会 国立民族学博物館「個—世界論——中東から広がる移動と遭遇のダイナミズム」		2015年10月1日 ～2020年9月30日
39	鳥山純子	理不尽に耐えず抵抗する、イエメンの少女から学ぶ“知”の力	イスラーム映画祭4、トークセッション、神戸元町映画館	2019年4月27日
40	鳥山純子	読書案内 「ムスリムの家族」	『歴史と地理 世界史の研究260』No.726	2019年8月20日
41	鳥山純子	外からの中東、中からの中東:中東ジェンダー学のスズメ	新時代の中東・イスラーム研究を拓く 於立命館大学衣笠キャンパス以学館2号ホール	2019年11月4日
42	鳥山純子	ムスリムの日常、あるいはイスラームのある日常—あるエジプトの家族の話—	日本中東学会第25回公開講演会「素顔の中東・イスラーム」 於山口市民会館	2019年11月17日
43	鳥山純子	Column #10 中東北アフリカにおける児童婚が考えさせるもの	イスラーム映画祭 Archive 2015-2020 50FILMS	2020年3月14日

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当なし					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	野村真理	「ミンスクのホロコースト——ベラルーシ現代史におけるその歴史的位相」	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
2	寺尾智史	「カタルーニャ独立問題に伴う言語多様性継承政策のパラダイムシフトに関する研究」	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
3	佐藤 量	「満洲引揚者の生活再建と地域定着をめぐる歴史社会学的研究」	若手研究B	2017年4月	2021年3月	代表
4	河原典史	「『海洋の歴史』研究の構築—領海主権・海洋権益・海洋社会をめぐる」	基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	分担
5	河原典史	「カナダ契約移民の輩出と渡航後の地域的展開をめぐる歴史地理学的研究」	基盤研究(C)	2015年4月	2020年3月	代表
6	田浦秀幸	日英バイリンガルの言語習得と喪失メカニズム解明 INIRS 研究	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	代表
7	田浦秀幸	幼児期の二言語使用が認知と脳にもたらす影響の解明	基盤研究(C)	2015年4月	2020年3月	分担
8	平田 裕	日本語教育における筆記テスト時と会話時の脳活動の近似性・相違性の研究	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
9	ウェルズ恵子	ミンストレルショーと初期ミュージカルの研究:舞台芸能交流の観点から	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
10	佐藤 渉	現代オーストラリア小説から読み解く先住民とヨーロッパ人の関係性	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
11	坂下史子	アメリカ合衆国におけるリンチの歴史の記憶化に関する包括的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
12	安保寛尚	アフロキューバ主義における混血アイデンティティの言説形成プロセスの解明	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
13	岡本広毅	J. R. R. トールキンの中世英語英文学研究と「ファンタジー」創作を巡って	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
14	湊 圭史	環太平洋的／惑星的想像力が描く natureculture としての環境表象研究	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	分担
15	三木菜緒美	Jack B. Yeats とヴァニキョラー文化:大衆娯楽文化の表象に関する研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
16	吉田恭子	現代英語圏文学におけるモダニズムの遺産継承に関する包括的研究	基盤研究(B)	2016年4月	2020年3月	分担
17	二宮周平	親の別居・離婚における子の権利保障システムの構築	基盤研究(B)	2019年4月	2022年4月	代表
18	泉谷 瞬	プロレタリア文化運動研究:地方・メディア・パフォーマンス	基盤研究(B)	2018年4月	2023年3月	分担
19	吉田恭子	冷戦期創作科教授哲学と20世紀アメリカ文学の研究:自由陣営文学における自己検閲	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
20	吉田恭子	冷戦期東アジアにおける創作教育、文学、大衆文化	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2019年4月	2023年3月	分担
21	丸山里美	日本社会における困窮女性の実態把握と売春防止法改正に向けた理論的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
22	金友子	離散民の祖国志向の歴史・社会的構築性に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2020年3月	代表
23	丸山里美	「オルタナティブ家族で精子提供によって出生した子の情報開示シレンマに関する9研究」	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
24	川端美季	帝国日本の植民地における衛生規範の確立—公衆浴場の普及に注目して	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
25	梁仁實	<戦後>韓国映画における「植民地」表象と日韓における変容	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
26	木村朗子	震災後文学の研究とその理論的構築	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
27	堀江有里	日本におけるクィア神学の文脈化をめぐる研究——「解放の神学」アプローチの可能性	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
28	姫岡とし子	近代ドイツのナショナリズムとさまざまな女性運動—日本のフェミニズムも含めて	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
29	丸山里美	「子どもの貧困に関する総合的研究:貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して」	基盤研究(A)	2016年4月	2020年3月	分担

30	RAJKAI Zsombor Tibor	家族変動と個人化に関する社会学的な言説の国際比較研究:ユーラシア地域を事例に	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
31	鳥山純子	イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究	基盤研究(A)	2016年4月	2020年3月	分担
32	鳥山純子	感情労働の地域・階級間比較にみる「近代家族」、フェミニズム思想の越境性とその限界	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
33	山本真紗子	19世紀末から20世紀初頭の欧米の「日本美術」愛好を支えたネットワーク	若手研究 B	2015年4月	2021年3月	代表
34	竹中悠美	中断された生の残像:死者の写真展示における美学と倫理の問題	基盤研究(C)	2016年4月	2021年3月	代表
35	仲間裕子	ドイツ・モダニズムの黎明期—作品、理論、パトロン—の美学・歴史研究	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
36	仲間 絢	ドイツ・ゴシック彫刻と『雅歌』の花嫁神秘主義	特別研究員奨励費	2019年4月	2021年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	河原典史	「海外の近代日本庭園の空間デザインをめぐる国際的研究—カナダ・バンクーバーの新渡戸庭園を中心として—」	第35回(平成31年年度)公益財団法人村田学術振興財団研究助成	2017年	2021年	分担
2	二宮周平	「生殖補助医療・社会的養護によるLGBTの家族形成支援システムの構築」	日本学術振興会 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業	2018年10月	2021年9月	代表
3	大谷通高	「社会課題はどのようにゲームとしてリフレーミング可能か?」	公益財団法人 科学技術融合振興財団・調査研究	2019年2月	2020年2月	代表
4	大谷通高	「社会設計を構想する方法としてのゲーム開発」	公益財団法人 中山隼雄科学技術文化財団	2019年2月	2021年2月	代表

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当なし								